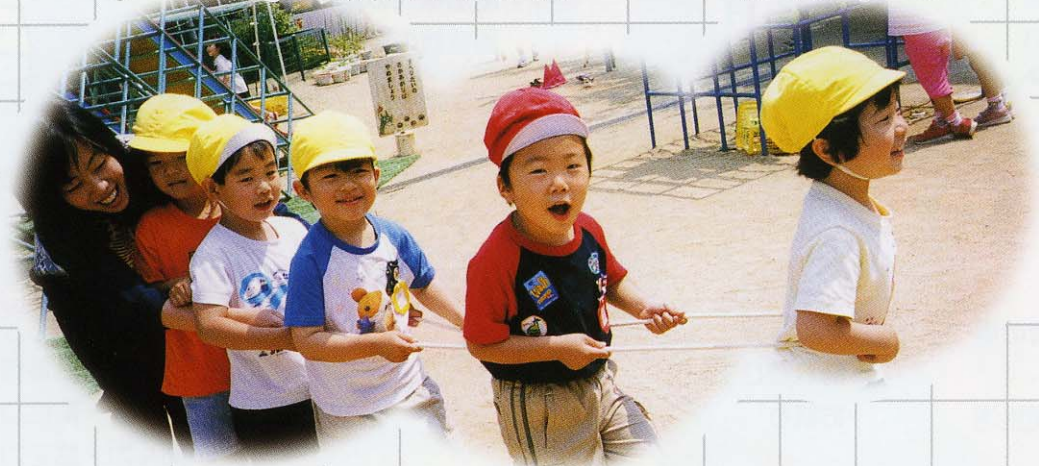


明るい未来社会を 子どもたちへ!

今こそ幼児教育への投資を



各国における就学前教育事情



日本

国公立幼稚園施設の割合：40.5%
私立幼稚園施設の割合：59.5%
小学校1学年児童数中の
幼稚園修了者：58.9%

平成16年5月1日「学校基本調査速報値」より

アメリカ

公立学校に付設した幼稚園に通う
5歳児在籍率：88.4%



文部科学省「教育指標の国際比較」(平成14年版)、
「諸外国の初等中等教育」(平成14年1月)より

中国

3~6歳児対象の幼稚園と3歳児未満対象
の託児所とがある。一般に保育・託児時
間が長いのが特徴。月曜の朝から土曜の
夕方まで子どもを預かるところもある。



国際教育交流促進協会の各国情報より



ドイツ

3歳未満の子どもは保育園(Krippe)、3歳~5歳
の子どもは幼稚園(Kindergarten)に通園する。
幼稚園の就園率は約90%(ドイツ全体)である。
教会系の幼稚園に通う5歳児在籍率は87.2%で
ある。

イギリス

イギリスでは無償の就学前教育制度が確立されて
いる。機関としてはNursery School(2歳~5
歳未満)、Infant School(4歳~7歳) Nursery
Class(3歳~5歳未満)などがある。

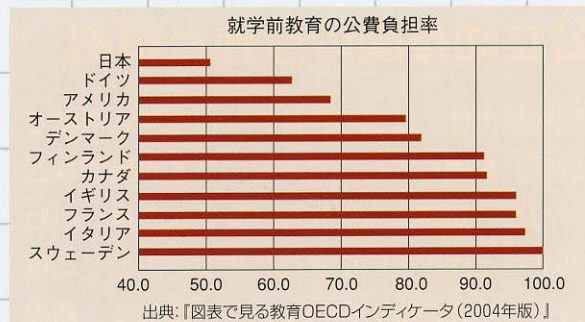


フランス

エコール・マテルネルと呼ばれる機関があり、義
務化はされていないが、9割以上の幼児が3年ま
たは4年の幼稚園教育を受けている、約90%以
上が公立であり、費用は無料である。

外務省「諸外国の主要学校情報」より

先進各国は、高い割合で公教育として「就学
前教育」を担っています。国家として幼児教
育の重要性を認識し、その責任を果たす意志
が明確であると読み取れます。



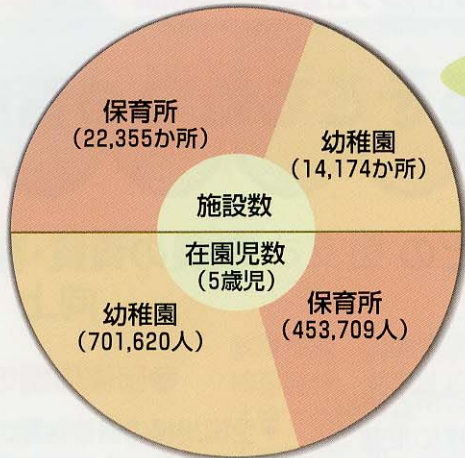
幼稚園の 今

データ
から

全国の幼稚園数 14,061園 (平成16年度)

全国の園児数 1,753,396人 (平成16年度)

※全国の保育所に在籍する3～5歳児は、128万人。全国の幼稚園数、園児数からみて、幼児教育、就学前教育において幼稚園教育が果たしている役割は大変高いことがわかります。

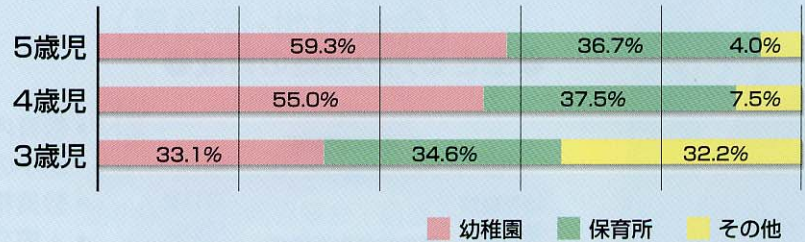


平成15年度 学校基本調査・社会福祉施設等調査より

- 4歳児・5歳児においては、幼稚園教育のニーズが高い。
- 3歳児においても就園率が増加傾向にあり、保護者のニーズは高い。
- 施設数は保育所が多いが、園児数は幼稚園が多い。

就学前教育・保育の実施状況

平成14年度 文部科学省調査



学校評議員制度及び類似制度について

学校評議員制度及び類似制度設置の有無
24.5%で実施

学校評価について

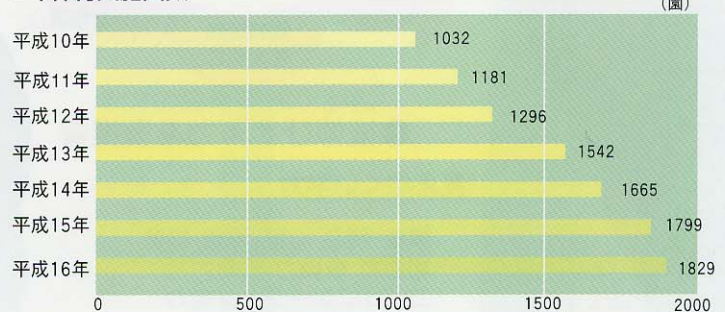
自己点検・自己評価の実施 64.4%で実施
外部評価の実施 34.9%で実施
外部評価の結果 66.3%で公表

平成16年度 全国国公立幼稚園長会
「全国国公立幼稚園の現状と諸問題」

3年保育実施園は毎年増加、

平成16年度は1,829園に。

3年保育実施園数



平成16年度 全国国公立幼稚園長会
「全国国公立幼稚園の現状と諸問題」

新たな 動き

- 「子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について」

—子どもの最善の利益のために幼児教育を考える— (答申) (平成17.1.28)

- 「就学前の教育・保育を一体として捉えた一貫した総合施設について」

(審議のまとめ) (平成16.12.24)

国公立幼稚園では、“学校評議員制度”を取り入れているそうですが、どのようなことを話し合っているのですか？

A 地域に開かれた幼稚園を目指し、評議員の方々とお話し合いを進めています。内容としては、教育内容、幼稚園運営、子育て支援のあり方等について、幼稚園と評議員とが一緒に話し合い、よりよい方向を模索しています。評議員は、幼稚園のご意見番であり、応援団であるといえます。

● 発行者・連絡先 ●

発行日 平成17年2月21日

発行者 全国国公立幼稚園長会

会長 酒井 幸子

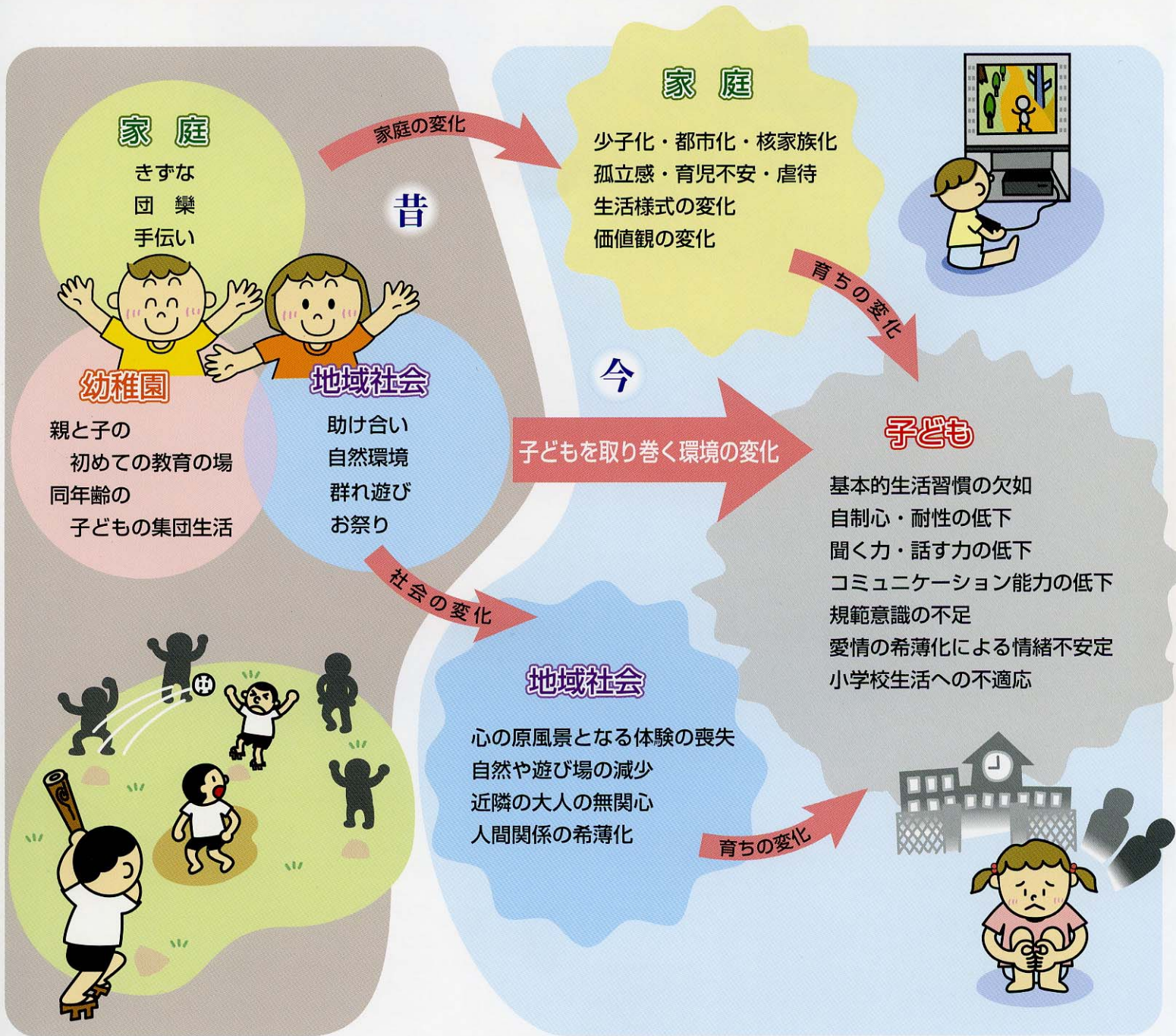
連絡先 全国国公立幼稚園長会事務局

住所 〒133-0034 東京都文京区湯島1-5-28

電話 03-5684-2240

FAX 03-5684-2174

あとの「後伸びする力」を育む



国公立幼稚園の意義と役割

幼稚園教育とは、幼児の主体的・自主的な活動である「遊び」を通して行われるものです。受験などを念頭におき、知識のみを先取りするような、いわゆる早期教育とは本質的に異なります。国公立幼稚園では目先の結果のみを期待するのではなく、幼児が人や物とかかわる中で「生きる力の基礎」を育成し、**「後伸びする力」**を育むことを重視しています。

なぜ、幼児期における教育は大切なのですか？

A 人間の思考力や創造力を司る脳の前頭葉は、3歳前後で急速に発達することが生物科学・医学的に解明されています。その後、10歳までの間に穏やかに成長していくのですが、筋肉でも使わなければ衰えるように、脳も刺激しなければ退化します。だからこそ、幼児期にさまざまな感覚を十分に働かせる環境と喜怒哀楽の感情をコントロールする力の育成が大切なのです。

国公立幼稚園

家庭・地域社会・幼稚園等施設の三者による総合的な幼児教育の推進



幼稚園等施設

集団生活を通して家庭では体験できない社会・文化・自然に触れ、豊かさに出会う場

直接体験学習の場

幼児の健全な成長



国公立幼稚園のリーダーシップ



家庭

愛情やしつけを通してもっとも基礎となる心身の基盤を形成する場

精神的やすらぎの場



地域社会

さまざまな人との交流や身近な自然・文化・ことごととのふれあいを通して、豊かな体験が得られる場

活動の拡がりの場

これからの幼児教育

幼児の生活の連続性及び
発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育の充実

幼稚園では、毎日遊んでばかりですが、
いいのですか？

A 本来、幼児は好奇心旺盛であり、自分を取り巻く環境に積極的に働きかけていきます。また、自分から進んで遊びながら、知識や技術を獲得し自らの世界を拡げていきます。幼稚園では幼児が、ただ“遊んでいる”だけのように見えるかもしれませんが、幼児にとって夢中になって遊ぶことがとても大切なのです。教師は幼児が主体的に遊べるように環境を構成し、幼児にとっての遊びが「学び」や小学校以降の「学習の基盤」となるよう指導しています。

国公立幼稚園の“地域の幼稚園”としての
役割はどのようなものがありますか？

A “幼児教育の専門家”として、蓄積された子育てのスキルを発揮し、各幼稚園において、創意・工夫された取り組みが推進されています。具体的には、地域の人々に幼稚園の施設や機能を開放したり、子育ての相談に応じたりと地域の幼児教育のセンター、つまり“地域の幼稚園”として“子育て支援”に努めています。

幼児教育界をリード

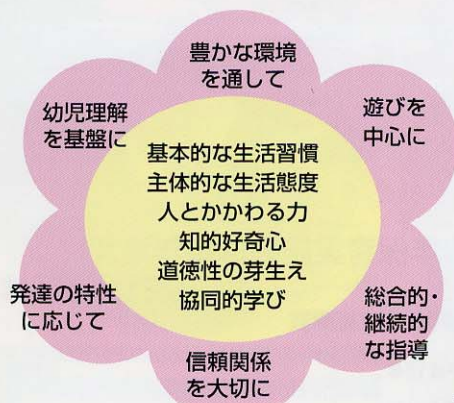
1世紀を越えて蓄積された実績・教育力の発揮と貢献

小

心豊かにたくましく生きる子どもたちの育成

教育内容の充実

●生きる力の基礎の育成●



●あとの 後伸びする力を重視●

見えにくい学力

興味 関心 心情 意欲 態度
判断力 表現力 思考力
コミュニケーション能力
体力 感性 等

小学校教育以降の学習の基盤

小学校教育との連携

- 教育内容の相互理解と接続
- 幼小の交流や連携の推進
- 教員相互の研修
- 人事交流の推進
- カリキュラムの接続



(5年生による読み聞かせ)

教員の資質・専門性向上

●研修体制の充実

- 全国規模の研修体制の充実と
- 経験年数に合わせた研修
- 社会体験研修
- 特別な支援を要する幼児に
- 人権教育・国際理解教育・IT研
- 社会の変化に対応した研修

●研修内容の充実

- 綿密な計画→実践→評価の精
- ティーム保育と保育カンファ
- 日常的な保育の振り返り

経験豊かな教員

平均勤続年数 (18.1年)
(平成13年度 学校教員統計調査報告書)
上級免許取得者 (39.5%)
(平成16年度 全国国公立幼稚園長会)

国公立幼稚園の役割

自己点検・評価

外部評価

国公立幼稚園は保育時間が
なぜ4時間程度なのですか？

A 幼稚園は教育の場です。子どもの発達や生活リズムを考慮し集中して活動する時間として1日4時間程度が望ましいのです。また、幼児の健やかな成長は、家庭、地域社会、幼稚園等施設における三者の教育がバランスを保ち、全体として豊かなものになって保障されるという考え方に基き、4時間程度を標準としているのです。

国公立幼稚園の先生は
どのような研修をされているのですか？

A 日々の保育を詳細に記録したり、教師同士が互いに保育を参観し講評したりする「園内研修」の充実を図っています。また、社会の変化や地域社会・家庭の教育力の低下に伴うさまざまな課題に対応する力をつけるよう、保育実践力の向上に努めています。また、研修や研究を教育委員会や学識経験者、専門家等がバックアップしています。

する国公立幼稚園

小学校教育との連携

組織力を生かした実践

信頼される開かれた幼稚園づくり

性の

親育ち支援

教育相談 公開講座
情報発信 園庭開放
子育て情報交換
未就園児の親子登園
保護者の保育参加
預かり保育
父親の子育て参加

実●

実と発表の機会

に関する研修
IT研修等
研修

実●

の積み重ね
ファレンス

報告書)

長会実態調査)

さまざまな連携 (異校種・地域社会)

異校種

保育所・小学校等との交流
幼小中各種合同協議会・研修
幼小中のPTA組織の連携

地域社会

地域の教育資源の活用
人材育成
子育てネットワーク
外部評価の活用
学校評議員制度の導入・活用
オープンスクール



説明責任

情報公開

国公立幼稚園では、
なぜ保護者参加の行事が多いのですか？

A 保護者が幼稚園での子どもの生活を理解できるように、保育参観やPTA活動などを実施し、家庭との連携を大切にしているからです。行事に参加することで、幼児の姿や幼稚園教育が目指していることを保護者自身が直接理解し、実感することができます。幼稚園での幼児の姿を知らせていくことで家庭での子育てに生かしてもらい、保護者も教師と共に育つことを目指します。

“幼小連携”という言葉をよく聞きます。
どのようなことですか？

A “幼小連携”とは幼児の成長を就学前から小学校1年生へと連続した流れの中で捉えようとするものです。幼児、児童同士が生活や行事を通して交流したり、教師同士が連携したりしています。幼児が1年生になったとき、違和感を覚えず小学校教育に馴染めるよう、職員研修をし、幼稚園教育と小学校教育との相互理解を深め、「なめらかな接続」を目指し連携を図っています。

生涯教育のスタートを国公立幼稚園で